



F(エフ)

written by:#6

真理を求めよう
 恐ろしくても目を背けずに



1. はじめに

このシナリオは、クトゥルフ神話 TRPG 第6版に対応したシナリオである。必要なものは基本ルールブックのみである。また、このシナリオは探索者3~4人向けにデザインされている。プレイ時間は探索者の作成時間を除き3~5時間程度だろう。シナリオの舞台は2010年代の京都であり、探索者は失踪した知人の行方を追うことになる。キーパーは、このシナリオでは「物理学」が重要となる旨をプレイヤーに伝えておく和良好的だろう。

なお、本シナリオに登場する物理学理論や研究についてはシナリオ上の都合から一部改変を加えており、現実のものとは厳密には異なることに留意すること。

2. シナリオの概要

探索者の共通の知人である京都大学理学研究科PD(ポストドクトラルフェロー/ポストドク※)の鈴木大輝が失踪した。彼は、ノーベル賞物理学者『湯川秀樹』の遺した『マルの理論』と呼ばれる研究に興味を持っており、その調査をしていた最中に行方が分からなくなったらしい。

探索者が調べるうち、かつて湯川が旧海軍から『F研究』と呼ばれる軍事研究を依頼されていたこと、そしてその危険な研究成果を求めて暗躍する海軍大尉の孫にして衆議院議員『吉岡健三』の存在に行きあたる。

果たして探索者たちは吉岡の陰謀を阻止することができるのだろうか？

※『PD(ポストドク)』とは：研究者の役職の一種。非正規雇用の研究者。大学の常勤ポストは狭き門なので、低収入で不安定なPDという立場から抜け出せず、将来が見通せない若手研究者は多い。

3. トレイラー

真理を求めよう
 恐ろしくても目を背けずに

湯川秀樹が思ったような
 まるい世界と不思議な場

しゅうそくするそりょういき
 泡立つ 時空
 はっさんするかくりつ
 広がる 未来

そのひとかけらでも
 私に 理解 できるのならば
 生きている意味が分かる気がするんだ

★シナリオの固有設定

＜呪文：マルの理論(『素領域』との接触)＞

呪文の使い手はPOWを1ポイントと1D6正気度ポイントを失う。この呪文をかけるためには、『マルの理論』を解き明かし、ヨグ=ソトース(素領域)の存在を証明しなければならない。

『素領域』は、自身の存在まで辿り着いた人間を戯れに自身の元へと呼び出す。証明式が書かれた空間は、一時的にヨグ=ソトースの棲む次元の裂け目に接続された『門』(ルールブックP.290)となる。

＜呪文：マルの解決＞

呪文の使い手は3マジック・ポイントと1正気度ポイントを失う。この呪文をかけるためには、1ラウンドの時間をかけて、術者が『マルの解決』の理論式を呪文の対象に書きこまなければならない。3ラウンドの間、対象が行う(もしくは対象を用いて行う)全てのD100ロールの出目の値に-iする。(iは虚数)

素領域(そりょういき)

湯川秀樹が提唱した、時空の定義や因果律の破綻までも説明することができる野心的な理論。『時空や因果律を司る泡』のような概念だと言われる。その正体はヨグ=ソトース(ルールブックP.226)の化身、つまり分体(Fission)である。



4. NPC 紹介

中戸葵 不遇な研究者 29 歳女性

STR 8 CON 11 SIZ 12 INT 16
 POW 9 DEX 11 APP 12 EDU 21
 正気度 45 耐久力 12 移動 8
 マジック・ポイント 9
 ダメージボーナス : 0
 技能 : <物理学:90%>

立命館大学で量子物理学を研究している PD。

普段は表に出さないものの、研究者として大きな実績を挙げられていない焦りと、PD という不安定な立場による将来への不安を感じている。

彼女は『吉岡栄一郎記念財団』による研究助成を受けており、助成テーマである『素領域』について研究している。素領域理論を研究する者は他に居ないため※、事実上彼女が素領域研究のトップランナーである。

※最先端の研究しているというよりは、将来性の無さから誰もが見切りをつけた分野を、紐付き助成金を受けるために仕方なく研究しているというのが正しい。

吉岡健三 極右政治家 61 歳男性

STR 11 CON 11 SIZ 12 INT 11
 POW 10 DEX 10 APP 13 EDU 16
 正気度 25 耐久力 12 移動 8
 マジック・ポイント 10
 ダメージボーナス : 0
 技能 : <言いくるめ:74%><芸術 (演説) :76%><信用:83%>

軍国主義を肯定するかのような過激な言論で注目されている衆議院議員。祖父は海軍大尉『吉岡栄一郎』であり、吉岡は祖父が主導した「F 研究」の遺産を我が物にし、その力で大日本帝国を再興しようと目論んでいる。

彼自身は東京在住のため、通常なら彼が探索者と直接顔を合わせることはないだろう。

金丸秀介 事件屋 32 歳男性

STR 17 CON 10 SIZ 16 INT 11
 POW 11 DEX 15 APP 9 EDU 15
 正気度 80 耐久力 13 移動 8
 マジック・ポイント 16
 ダメージボーナス : +1D6
 技能 : <ライフル:86%><ナイフ:78%><回避:75%><隠す:84%>
 武器 : ファイティング・ナイフ (ダメージ:1D4+2+DB)

衆議院議員『吉岡健三』と協力関係にある若きフィクサー (裏社会の顔役)。彼は直属の部下を持っており、吉岡の依頼に応じて暗躍する。彼らの主な仕事は、選挙妨害をはじめ諜報や隠蔽工作、そして吉岡と利害対立する人間 (市民団体や告発者など) への嫌がらせや脅迫である。

金丸の部下 チンピラ達 20 代男性

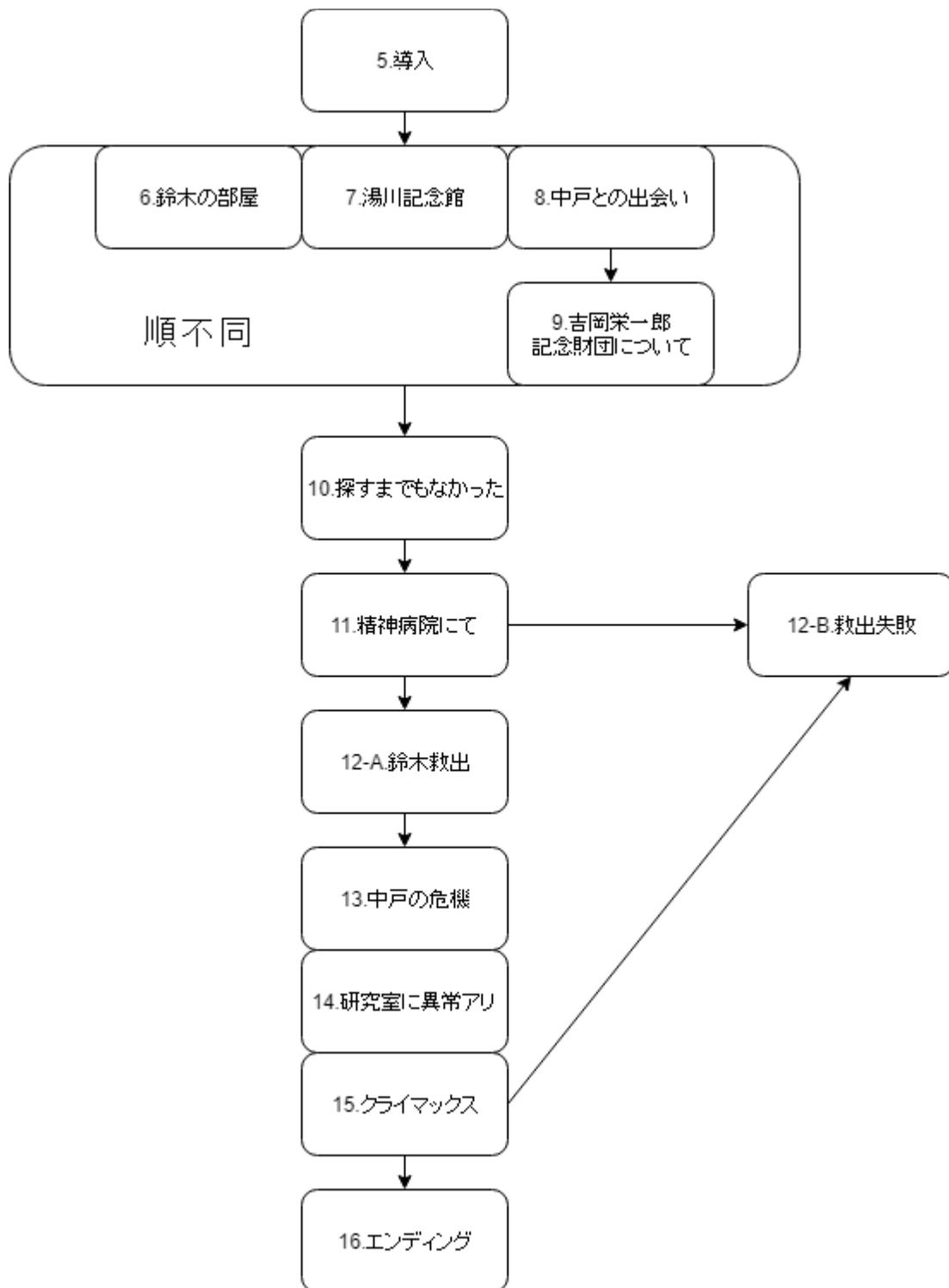
STR 14 CON 14 SIZ 10 INT 10
 POW 10 DEX 10 APP 10 EDU 10
 正気度 50 耐久力 12 移動 8
 マジック・ポイント 10
 ダメージボーナス : 1D4
 技能 : <ナイフ:60%>

武器 : ファイティング・ナイフ (ダメージ:1D4+2+1D4)

金丸の部下。全員同じステータス。頭はあまり良くないが腕っぷしはそれなりの典型的チンピラ。



4. シナリオ進行 (フローチャート)





5. 導入

探索者たちの知人である鈴木が失踪してから一週間。鈴木の方角を捜すため、鈴木が所属していた京都大学北部キャンパスにある素粒子論研究室に探索者が集まったところから物語は始まる。

研究室の隅にはソファとテーブルがあり、素粒子論研究室の教授、赤山はそこで探索者たちにことのあらましを説明する。

「鈴木君が研究室に来なくなって一週間。様子を見に行っただけだけどね、家にいる気配もない。研究の方でやっとな結果が出そうなところだっただけに、突然いなくなったのが不思議だね。警察にも相談したのだけど、未だに行方が分かっていない。君たちも探してあげてくれないだろうか」

研究室には鈴木デスクがあり、赤山教授は自由に調べても構わないと言う。鈴木デスクの前には湯川秀樹の著作『旅人』を始めとしたエッセイや論文が几帳面に並べられている。鈴木が湯川の大ファンであり、それが京都大学に進学した動機であることは、知人である探索者たちもよく知っていることである。

机の中には数式やメモ書きで埋め尽くされたノートがある。〈物理学〉に成功したならば、書かれた数式は変換を繰り返した挙句元通りになり、堂々巡りを繰り返していることがわかる。探索者はこの数式に不思議な不気味さを覚え、0/1D4 正気度ポイントを失う。

もしも探索者が〈クトゥルフ神話〉と〈物理学〉の組み合わせ判定に成功したならば、この数式がヨグ=ソトースの存在を学術的な意味で『証明』するために書かれたものだとして理解し、加えて1/1D10 正気度ポイントを失う。

また、鈴木と同僚の研究者たちからは研究室での鈴木の様子について聞くことができる。彼らによると、鈴木は研究に行き詰るとよく気分転換のために湯川記念館に行っていたという。

6. 鈴木の家

鈴木は大学近くのアパートで一人暮らしをしている。家の周りで聞き込みを行うと、「一週間ほど前に、深夜にドタバタと騒ぎ喚く音がしたが、それ以降は姿を見ていない」という話が聞ける。

鈴木の家は一般的なディスクシリンダー錠であり、〈鍵開け〉の2倍の判定もしくは〈機械修理〉の判定で簡単に開けることができる。また、一階には大家さんが住んでいるため、事

情を話して立ち会ってもらっても良いだろう。大家さんは、大学に連絡をして教授に確認が取れると快く立ち会ってくれる。（立ち会ってもらう場合には部屋に入るための判定は不要だが、部屋の中の物を持ち帰ろうとすると見咎められるだろう）

鈴木部屋の扉を開けると、埃臭い空気が溢れ出る。探索者は部屋中の壁を埋め尽くすように書かれた数式を目にすることになるだろう。〈物理学〉に成功すれば、その数式が鈴木ノートの書かれていた理論を完成させたものだということが分かる。

★壁一面の数式の正体と失踪の真相

数式は、鈴木が〈マルの理論〉(P.1)の呪文を好奇心で使用した跡。彼は『素領域』と面会したが、帰って来た時には発狂していた。その直後に金丸が鈴木を拉致し(一週間前の深夜のドタバタ騒ぎ)、正気の回復を待ってF研究を実行に移そうとしている。

この異様な光景を見た探索者は0/1D6 正気度ポイントを失う。

部屋は畳の六畳一間で小さなキッチンをついた風呂トイレ別の非常にシンプルなものである。部屋の奥には布団が敷きっぱなしにされており、部屋の中央にはちゃぶ台と、その上にノートパソコンが置かれている。この部屋にはクローゼットはなく、代わりに棚と衣装ケースが壁際

に置かれている。衣装ケースには男物の服が詰められており、棚には数学や物理学の本が並んでいる。探索者が〈図書館〉に成功したならば、棚に置かれた本の傾向から、鈴木が持つ『素領域理論』への興味を伺い知ることができる。

また、パソコンの中には二週間前の日付で「アポイントメントのお願い」と題されたメールの発信記録がある。内容は「『素領域理論』についてお話を伺いたいのですが」というものである。このメールに対しては返信が届いており、面会を了承する旨と場所の地図が記されている。この返信メールの最後には、送り主として『立命館大学理工学部物理科学科 PD 中戸 葵』の名が書かれている。

【情報:素領域理論】(〈物理学〉に成功すると情報入手)

『素領域理論』とは湯川秀樹が1960年代に提唱した理論である。特定の条件下において因果律が成り立たなくなる現象(通称『湯川のマル』と呼ばれる)を説明するための理論であり、空間や時間を『素領域』という概念で全て説明しようとする野心的な試みであったが、物理学の主流からは外れており、この理論について研究している人間は現在ではほとんどいない。



【情報:湯川秀樹】 (インターネット又は湯川記念館で調べると情報入手)

京都大学出身の物理学者(生1907年～没1981年)。中間子の存在を予言したことでノーベル物理学賞を取っている。晩年は『素領域』と呼ばれる理論を立てて独自の研究を進めたが、物理学の主流からは外れてしまい、その研究は棚ざらしとなっている。また、彼は第二次世界大戦中には軍の研究に協力することもあったが、第二次世界大戦後には平和運動に尽力した記録が残っている。

7. 湯川記念館

湯川記念館は、素粒子論研究室と同じ京都大学北部キャンパス構内にある。

湯川記念館には、湯川秀樹が遺した研究資料などが保存されており、閲覧することができる。

探索者がここで<目星>に成功すると、本のページの隙間から『未発見の資料(海軍からの手紙)』を見つけることができる。

【情報:未発見の資料(海軍からの手紙)】

湯川君ニ於イテハ、F研究実行計画ニツイテ同意サレタイ。既ニ準備ハ整ヒ、証明式ヲ研究スル貴兄ノ参加ヲ待ツノミデ在ル。

Fissionヲ迎ヘル為ノ生贄ニツイテハ貴兄ニ一任ス。証明式ヲ解シタ物理学者ヲ用意サレタシ。

貴兄ハ大日本帝国ノ命運ヲ握ツテ居ル。貴兄ノ協力ヲ切願ス。

海軍技術大尉 吉岡栄一郎

【情報:F研究】 (<歴史>に成功する、もしくはインターネットで調べると情報入手)

第二次世界大戦中に京都帝国大学(京都大学の前身)が参加していたとされる軍事研究。Fは“Fission”の略。帝国海軍が主体となり湯川たち物理学者を動員した研究であり、『原子爆弾の開発』を目的としたものだったと言われている。しかし、帝国海軍は原子爆弾の研究に必要なはずのウランを十分に準備することすらなかったという。

※Fission……(名詞) 1. 分裂、2. 【生物】 分体、3. 【原子物理】 核分裂

8. 中戸との出会い

鈴木の家メールから見つかった地図には、立命館大学びわこ・くさつキャンパス内の場所が記されている。最寄り駅であるJR南草津駅からはバスで20分ほどである。(京都からなら計1時間ほどでいける)

中戸は研究室でノートを前に唸っており、探索者が声をかけたなら快く対応してくれる。

「鈴木君? 二週間くらい前だったかな、ここに来たよ。『素領域理論』についてアイデアがあるから意見を聞きたいって話だったんだけど、そのアイデアが凄くてね……」

探索者が口を挟まなければ彼女は鈴木との会話の内容について話し始めるが、非常に専門的な内容であり、<物理学>の判定に成功しなければ彼女の話についていくことができない。探索者が置いてけぼりになっていたとしても中戸は全く意に介さず語り続ける。その様子から、彼女が筋金入りの物理学オタクであることが分かるだろう。

探索者が<物理学>の判定に成功していたならば、彼女の話の概要を理解することができる。中戸の話によると、鈴木の話した理論は「『素領域』は無数の泡の集合体である」というもので、それは絶えず形を変えたり、くっつき合ったり、また分かれたりを繰り返しながら時空を形作っているのだという。

一通り語って落ち着いた中戸は以下のように話を纏める。

「鈴木君の理論は、少し詩的に例えるなら『時空を司る神様に会える魔法』と言えるかもね」

「それにしても、まさか素領域理論が完成するなんて、きっと誰も思っていなかったよ。私も『吉岡栄一郎記念財団』の紐付き助成金がなければ素領域なんて研究してなかったし……。なんで埃被った理論に研究助成なんかしてるのか疑問だったけど、こうなってみれば先見の明があったのかな。私も鈴木君の論文のコレスポ※1になれることを財団に伝えたいし、これで来年も助成を貰えるかも」

「……とはいえ、ポストドクなんてファースト※2の論文で名を売ってナンボだけだね。実は今『非局所場における因果律破綻の解消』って論文の執筆が佳境に入っていて、家にも碌に帰ってないの。この研究は例えるなら『神様に触れる魔法』かな。ね、そう聞くと鈴木君の論文にも負けてないでしょ?」



※1. コレスポ/コレスポンドイング・オーサー (Corresponding author) : 論文の正しさを請け負う責任者。研究業績として結構評価される。大抵はラストオーサー (≒研究室のボス) になるのだが、今回は論文内容について理解が深いのが鈴木と中戸だけであり、中戸は素領域研究の専門家として重要な助言を行っているため、恩返しの意味でも役割の重要性の上からもコレスポの立場を貰ったものと考えられる。

※2. ファースト/ファーストオーサー (First author) : 論文を書いた人。当然一番評価される。スポーツで例えるなら、ラストオーサーが監督、コレスポがコーチ、ファーストオーサーが選手に相当すると考えると当然らずしも遠からず。

★「吉岡栄一郎記念財団に伝えた」

中戸が何気なく言ったこのセリフが、吉岡が鈴木 の存在を掴み、金丸が彼の身柄をおさえた背景を示しています。

鈴木が「素領域理論」を完成させたことは何も知らない中戸の口から吉岡たちに伝えられ、それが鈴木誘拐の動機となったのです。

9. 吉岡栄一郎記念財団について

探索者が『吉岡栄一郎記念財団』のことを知ったならば、この組織について調べようとするかもしれない。

インターネットで分かる情報は、名家の出身であり旧日本海軍の大尉であった吉岡栄一郎の出資によって作られた財団であること、彼の孫で衆議院議員の吉岡健三がこの財団の理事長をしていること、主な活動は研究助成であることくらいである。

また、探索者が<アイデア>に成功したならば、研究助成は主に文系分野が中心であり、第二次世界大戦にまつわる研究、特に日本軍の功績を評価したり戦争犯罪の存在を否定するような研究テーマに対して助成が行われていることに気付く。

探索者がそれ以上詳しいことを知ろうとするならば、東京にある吉岡栄一郎記念財団の本部に向かう必要があるだろう。

(公財) 吉岡栄一郎記念財団は目黒区にあるビルをワンフロア借りて運営されている。受付は若い女性であり、事務的に用件を聞いて案内するのみである。彼女は自分の権限を越える内容は一切語らないが、探索者が頼めば内部を見学させてもらうことができる。

会議室では、この財団の理事長であり国会議員でもある吉岡健三が講演を行っており、「今こそ日本国には『力』が必要だ」というタイトルで演説をしている。

「大日本帝国の科学技術力は素晴らしく、本来なら帝国海軍にはアメリカを凌ぐ力があつた。しかし、学者の中に怖気づいた者がいたために、敗戦の屈辱を味わうことになったのだ。誰もが国のために思い身を投げ出せば、今度こそ我ら日本国が八紘一宇※の世界を築く日がやってくるだろう」

※八紘一宇 (はっこういちう) : 全世界を一つの家のようにまとめ上げること。

探索者が吉岡に話しかけようとしても、SPに止められて話すことはできない。

10. 探すまでもなかった

シナリオでは、ここまでの探索で鈴木 の行方に直接繋がる情報を提示していないため、大抵の場合はここで探索に行き詰るだろう。

そんなとき、赤山教授から連絡が入る。鈴木 の行方が分かったというのだ。

※探索者がシナリオに記載のない何らかの方法で鈴木 の行方を探し当てた場合も、そのタイミングで赤山教授から一報を入れさせると良い。

赤山教授によると、鈴木は東京都目黒区にある精神病院「正興病院」に入院しているらしい。警察から連絡があり、退院まではしばらくかかるが、心配する必要はないと伝えられたという。

赤山教授は事情が分かったため行方探しはもう必要ないと探索者に伝える。

ここで探索者が<アイデア>に成功すると、鈴木がなぜわざわざ『東京の』精神病院に入院しているのか、そして誰が鈴木を入院させたのか不審に感じる。

また、赤山教授と話すことで鈴木が入院している病院の住所や連絡先を聞き出すことができる。

11. 精神病院にて

探索者が鈴木を訪ねて東京の正興病院へと赴くと、鈴木は病状が深刻で閉鎖病棟に入院しており、面会が困難である旨を聞かされる。

彼は偏執症に陥っており、妄想を話したり、意味不明な数式を部屋中の壁に書き殴ったり、突発的に激しい感情を表したりすることがあるという。

鈴木が偏執症に陥っているのは事実である。しかし、病院側が彼との面会を認めないのは、鈴木 の病状が原因ではなく、吉岡健三から一切の面会を認めないように念押しされているからである。探索者が<心理学>に成功したならば、「鈴木とは面会できない」と言った時の担当者の表情から、何か後ろ暗いことがありそうだと



気づくことができる。

担当者に「誰が鈴木をこの病院に連れて来たのか」を尋ねると、以下のように答える。

「通りすがりの若い男性が、様子のおかしい彼を見かねてここに連れて来られたのです。男性は名乗らずに去り、鈴木さん本人の同意があったために入院に至りました。鈴木さんからは話が聞ける状態ではなく、身元が分からなかったために、警察からの照会で身元が分かるまで関係者の皆様に連絡することができませんでした。申し訳ありません」

探索者が<アイデア>に成功したならば『話を聞ける状態ではなかった鈴木がなぜ入院に同意できたのか』という矛盾に気付く。

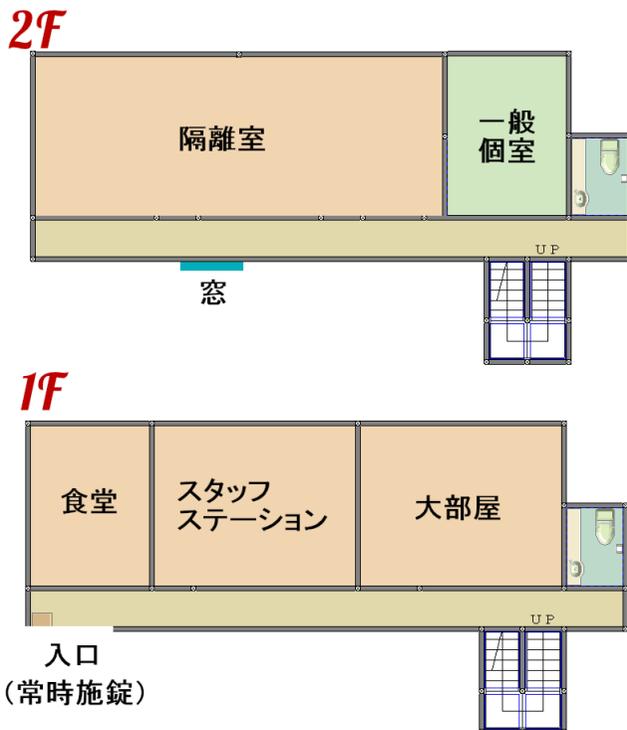
しかし、どんなに問い詰めても病院は面会を認めることはない。そもそもこの病院には吉岡健三の息がかかっており、更に公的機関に頼ろうとしても吉岡による政治的圧力があるため、正攻法では面会機会を得ることは難しいだろう。

12-A. 鈴木救出

鈴木を救出するためには、病院内に忍び込んで彼を連れ出す必要がある。しかし、病院内には金丸の部下4人(プレイヤー数と同じ人数に調整すること)が鈴木警備のために1階のスタッフステーションにて待機している。鈴木は2階の隔離室の一室に監禁されており、病室の鍵は廊下側からは開くものの部屋の中からは開くことができない。(通常の鍵とは逆)

探索者は<鍵開け>で閉鎖病棟の入口の扉を開けたり、<登攀>で二階の窓を割って侵入するなど自由な方法で病院に侵入し、鈴木を救出すると良いだろう。ただし、スタッフルームの前を通る際には<隠れる>と<忍び歩き>の組み合わせ判定に成功しなければ金丸の部下たちに見つかってしまう。また、侵入の際に探索者が物音を立てたならば、即座に1階の警備員室から金丸の部下たちがやってくる。

鈴木は偏執症の狂気に陥っているため、連れて行く際には<精神分析>で落ち着かせるなどの対策をしない限り、80%の確率で探索者たちが自分を殺しに来たのだと妄想して騒ぎ出す。



閉鎖病棟フロア図



12-B. 救出失敗

シナリオ開始から7日後までに鈴木を救出できていなかったならば、吉岡健三は狂気から回復した鈴木に〈マルの理論〉を使わせて、『素領域』と対面する。

そして、吉岡は鈴木を生贄にすることで、ヨグ=ソトースの分体である『素領域』、つまり“Fission”を現実世界へと呼び寄せる。吉岡は、祖父の悲願であったヨグ=ソトースの招来と、その力を利用した大日本帝国の再興を目論んでいるのだ。……『素領域』(Fission)を彼が制御できる保証は何一つないのだが。

こうなってしまった場合、世界はヨグ=ソトースの脅威に怯えることになるだろう。探索者は1D10/1D100 正気度ポイントを失う。

13. 中戸の危機

鈴木を救出して京都に戻る最中に、突然探索者のスマートフォンが鳴る。相手は中戸であるが、助けを求める声の途中で切れてしまう。

※中戸と連絡先交換をしていない場合はこのイベントは発生しない。代わりに探索者に〈アイデア〉判定をさせて、湯川記念館で見つけた手紙に『優秀な物理学者の生贄』と書かれていたことに気付かせること。

(ただし、中戸が探索者に守られるなどして簡単に拉致できない場合には、中戸の代わりに赤山教授が生贄に選ばれて拉致される。この場合には14. 研究室に異常アリのイベントを、京都大学素粒子研究室の部屋を舞台に、生贄を赤山教授として発生させること。赤山教授は素領域理論について完璧には理解していないため、万が一ヨグ=ソトースに取り込まれたとしても生贄の儀式は失敗となる。また、探索者の中に理論物理学者がおり、拉致できそうな隙があるならば、その探索者を生贄として攫っても面白いかもしれない)

14. 研究室に異常アリ

中戸は論文執筆が佳境に入っており昼夜問わず研究室にこもっているため、イベントの発生時刻に関わらず金丸たちが中戸を拉致して立てこもる場所は立命館大学の研究室となる。

金丸たちは、一切の騒ぎを起こさずに研究室を制圧してしまう。そのため、外から見れば、研究室の中では何事も起きていないかのように見える。

研究室の扉には鍵がかかっており、中の照明は消されている。しかし、探索者が〈聞き耳〉に成功したならば、研究室の中に息を潜めた人間が複数人居ることに気付くことができる。

- ・第一研究室：中戸の机には電源のついたままのノートパソコンが置かれており、**【書きかけの論文】**が表示されている。また、奥の第二研究室に繋がる扉があり、その前には2人の金丸の部下が控えている。部屋にいる金丸の部下は、彼らを含めてプレイヤー人数×2人である。昼間の場合には、中戸以外の研究室の面々計6名（教授や院生など）が捕まっており、中央のテーブルの周りに座らされ、監視されている。夜間の場合は部屋に居るのは金丸の部下のみ。

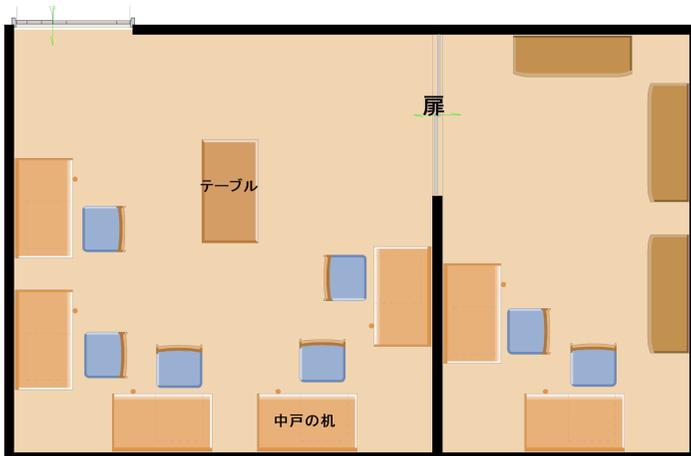
- ・第二研究室：第一研究室から直接扉で繋がっている。内部でのイベントは**15. クライマックス**を参照。

【Item:書きかけの論文】

中戸による執筆途中の論文。確率因子を操作し、『素領域』影響下での因果律破綻を解消するための理論である。

正気度ポイント喪失は1D3/1D6。〈クトゥルフ神話〉に+4%。研究し理解するために平均54週間。ただし、〈物理学〉に成功したならば、その場で理解し、呪文を習得することができる。

呪文：〈マルの解決〉→P.1



第一研究室

第二研究室

研究室内部図



15. クライマックス

第二研究室は、部屋中の壁が<マルの理論>の数式で埋め尽くされている。探索者が足を踏み入れた瞬間、周囲の風景がガラリと変わる。

★第二研究室の<マルの理論>は誰によるもの？

拉致された中戸が、金丸に<マルの理論>を使うよう強要されて使いました。

(赤山教授が攫われたケースでも、強要された赤山教授が<マルの理論>を使います。彼は素領域理論について完全な理解はできていませんが、鈴木論文に目を通しているため、証明式を書き上げることはできるのです)

因果律と三次元の論法を越えた世界、時の深淵を飛び越えた先の、関係性の失われた世界。そこには、この世に存在しえない幾何学法則に従って配置されたそびえ立つ石の数々があった。何色ともつかぬ空からは光が差し込み、象形文字の刻まれた巨大な台座を照らしている。台座の上には、首を思い切りそらして見上げて一番上が見えないほど巨大な、玉虫色の沸き立つ泡が鎮座していた。

素領域 ヨグ=ソトースの化身

STR 該当せず CON 400 SIZ 400

INT 40 POW 100 DEX 1

耐久力 400 移動 100

ダメージボーナス：なし

攻撃：取り込む 100%※一度に一人しか取り込めない

装甲：因果律破綻(このクリーチャーを相手にした判定は $-i$ (i は虚数)の修正を受ける※)

※虚数が含まれる判定は必ず失敗する。

このクリーチャーのステータスは必ず公開すること。

この光景を見た探索者は、1D10/1D100 正気度ポイントを失う。ただし、この<正気度>ルールに失敗した場合には、一度だけ<物理学>で判定を行うことができる。この判定に成功したならば、<正気度>ルールが成功したものとして扱う。

この<物理学>判定に成功したということは、『素領域』を物理学的な存在として理解することができ、未知への恐怖をそれほど感じなかったということだ。

『素領域』の麓には、中戸と金丸の姿がある。

中戸は『素領域』の泡の中に取り込まれかけており、金丸は薄笑いを浮かべたまま、『素領域』の泡の中に沈んでいく中戸の姿を眺めている。

3ラウンド後に中戸が『素領域』に完全に取込まれることで契約は成立し、『素領域』一

つつまりヨグ=ソトースの“Fission(分体)”は現実世界へと赴く。探索者がそれまでに間に合わなかったならば、その後の展開は**12-B. 救出失敗**に準ずる。

中戸を助けるためには、『素領域』に10点以上のダメージを与えなければならない。<マルの解決>、もしくはD100ルールを用いずにダメージを与えられるような呪文を唱えられなければ、中戸を助けることは困難だろう。中戸が『素領域』に取り込まれる瞬間を目にしたならば、0/1D6 正気度ポイントを失う。

生きた状態の中戸を取り込むことができなかった場合、『素領域』は代わりに生贄を得るために、その場にいる人間を取り込もうと膨らみ始める。逃れるためにはひたすら走って逃げるしかないだろう。探索者とNPCは持久力を示す<CON>*5での判定に成功しなければならない。失敗した者が複数いる場合は失敗した者のみが再度挑戦し、最後まで失敗し続けた一人を決める。その一人は『素領域』に取り込まれる※が、残りの者は『門』を通して元の世界へと戻って来ることができる。

金丸の逃走を妨害するなどの生き残るための工夫については、キーパーは積極的に認めて良いだろう。

※中戸や物理学者である探索者が取り込まれてしまうと、結局『素領域』(Fission)が現実世界へと送り込まれることになる。その後の展開は**12-B. 救出失敗**に準ずる。

★<マルの解決>の呪文を使うと『素領域』の装甲を無視できるのはなぜ？

<マルの解決>は出目の値を $-i$ し、『素領域』の装甲は判定に $-i$ %の修正を与えます。判定が成功するのはD100ロールの結果がパーセント値以下だった場合(ルールブックP.58)なので、**数の大きさという概念の無い『i(虚数)』が式に入った時点で判定は自動失敗します。**これが判定失敗の原理です。(大きさが無いものに以上も以下もない)しかし、両者が同時に適用された場合、事情が変わってきます。

(例)こぶし50%でD100ルールをするなら
1D100 - i (<マルの解決>) <=50 - i (装甲修正)となり、**両辺の $-i$ は同じ数なので打ち消せます。**式の最終形は1D100<=50となり通常の判定と同じになります。



16. エンディング

探索者たちが現実へと戻って来ると、大学は大騒ぎになっている。金丸の部下たちの立てこもりが発覚し、警察が呼ばれたのだ。

金丸の部下たちががちょうど連行されているところに探索者たちは戻ってくることになる。この事件と吉岡健三を繋ぐ何らかの証拠を手に入れていたならば、これを警察やマスコミに渡しても良いだろう。そうした場合、吉岡はこの事件により失脚し、転落人生を歩むことになる。

——そうしなかった場合、吉岡はまたいつか同じような陰謀を目論むかもしれない。しかし、非合法活動を任せていた金丸を失ってしまったため、しばらくの間は無茶をすることができないだろう。探索者たちは暫くの安寧を得ることができる。

<正気度報酬>

吉岡健三の陰謀を打ち砕いた	+1D6
鈴木大輝が生きている	+1D3
中戸葵が生きている	+1D3
探索者が全員生還した	+1D3
吉岡健三を失脚させた	+1D3

17. シナリオ作者からのメッセージ

このシナリオは一見すると、数学アレルギーを発症する人もいそうな、癖の強いシナリオです。しかし、シナリオ中のギミックは実は中学校の学習範囲（等式の性質）で内容が理解できる形※にまとめてあり、決して難しいものではありません。中戸のセリフによるヒント（『神様に触れる魔法〜』）もあり、理系知識がなくても答えに辿り着くことができます。もしもプレイヤーが悩んでしまったら、<アイデア>判定で素領域の装甲を無効化させる方法を思いつかせてもよいでしょう。

※虚数(i)の概念は難しいですが、シナリオ中ではiに『打ち消さなければならない謎の値』以上の役割はないので、さらっと流すと良いでしょう。

あまり難しく考えず、文系の方や高校生以下の皆さんも冒険を楽しみましょう！そしてガチ理系の皆さん、設定の甘さに厳しいツッコミを入れるのは勘弁してください！フィクションだから！ね！

★最後に★

シナリオを利用したリプレイ及び動画等の二次創作については、シナリオタイトル及びシナリオ製作者の情報を明記することを条件に許可します。

シナリオ製作：#6（永久パピルス）
http://brainmixer.net/yibbtst11.html

永久パピルスでは、ボリュームたっぷりなシナリオ集をメロンブックス様で販売しています。

『イブ・ツトゥルの景象』B5／120P／価格1000円
(https://www.melonbooks.com/index.php?main_page=maker_affiliate_go&affiliate_id=AF0000028251)

『バグ・シャースの侵蝕』B5／108P／価格1000円
(https://www.melonbooks.com/index.php?main_page=maker_affiliate_go&affiliate_id=AF0000027414)

『ゾス・オムモグの暗影』B5／134P／価格1000円
(https://www.melonbooks.com/index.php?main_page=maker_affiliate_go&affiliate_id=AF0000028253)

『ラン・テゴスの微睡』B5／156P／価格1000円
(https://www.melonbooks.com/index.php?main_page=maker_affiliate_go&affiliate_id=AF0000029264)

